

---

**もし今、僕らが死んだとしたら。**

笹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もし今、僕らが死んだとしたら。

### 【Nコード】

N2463BA

### 【作者名】

笹

### 【あらすじ】

物語の舞台は田舎町。主人公は高校生の”僕”。

特にどう悩んでるって訳じゃないけど

なんだか気分が晴れなくて、何もしたくなくて。

学校を無視して終点の駅へ。

久しぶりに降り立った駅で”僕”を待ち受けているのは…？

## プロローグ

\*\*\*\*\*

「死にたい」

僕はこの言葉が大嫌いだ。

この言葉はただ、  
生きるのをやめてしまいたい  
って意味だけじゃない気がするから。

「私はこんなにも悩んでいて、  
死ぬか生きるかまで来ているんですよ」

どう？凄く可哀想でしょ？

悲劇のヒロインみたいでしょ？

さあ、かわいそうな私に同情してよ』

そう、訴えかけられているような  
気がするから。

自分だけが可哀想だとか  
悲劇的だとか

そんな甘えた考え方は嫌いだから。

この記事を読んでいるであろう皆さんは  
分かってくれますか？

\*\*\*\*\*

「記事投稿」のキーを押して  
携帯を閉じる。

もうすぐ学校の最寄駅だ。

いつもは上の空で乗っている電車も、  
こんな重いブログを更新してからだと  
ちよつと違って見える、・・・気がする。

僕が住んでいるのは田舎町。

だから電車も基本的に1時間に1本。

でも登校日の月曜日から金曜日、  
たまに土曜日までは  
学生用で多く電車が通る。

それでも朝限定で

2・3本増えるだけ。

窓の外は畑や田んぼや・・・

とりあえず、地味な光景だ。

携帯に目をやると

午前10時を過ぎていた。

東高校の制服を着ているためだろうか。  
運転手がこちらを伺っている。

「とつくに授業は始まっているはずなのに。」

そう思っていることだろうけど、  
僕の知ったことじゃない。

県立東高校の最寄駅に電車が止まった。  
でも僕は微動だにしなかった。

それを見かねた運転手が声をかけてきた。

「君、駅に着いたよ。」

「・・・僕、降りないんで発車してください。」

「今日は水曜日だよ。登校日じゃないのかい。」

「登校日だけど、今日は病院に行かないとだから。」

「そうか、分かった。・・・余計なこと言ってすまんかったな。」

「……………」

すかさず携帯を開いて

メール画面を開く。

宛先はネットの呟きページ。

『サボりも暇だから遠出しようかな。  
言いづらいから嘘ついた。』

送信・・・っと。

今日は水曜日。

本当だったら今頃は

僕の大嫌いな数学の時間かな。

今日の時間割はこれまでに

無いくらい最悪。

苦手なものが詰まってる。

窓の外は雨が降っている。

小雨でもないし大雨でもないけど  
傘は必要かな、くらいの。

傘があれば同じ高校の  
学生に会っても顔がバレないように

隠すことができる。

今日は神様がくれた  
絶好のサボリ日かもしれない。

心の中は結構楽しかった。

でも表情に出すほどじゃないし  
一人でニヤニヤしてても  
おかしいと思うし、

運転手も真顔の僕に少し  
たじろいでいたと思う。

終点まであと15分くらいだ。

終点・・・行っちゃおうか。

そんなことを考えながら  
窓の外を見ているうちに  
いつしか乗客は僕だけになっていた。

終点まであと、3駅。  
3駅とも無人駅だし、



終点行くしかなさそうだな。

終点の駅は西ナント力駅だった気がする。  
あんま行かないから知らないけど。

単純に考えてみると結構すごい。

もしこの路線を平面図にしたときに  
綺麗な円形になっていたら、

僕は東から西に移動したって事だから・・・

半円分移動したのか。

なんか、「ふーん」って感じ。

でもそれは母さんとかがうるさくて  
払うように言う「ふーん」「じゃなくて  
もっと”感心”って感じの・・・

ここまで頭の中で話を進めたところで  
なんだか自分に呆れたような  
感情が湧いた。

深く、ため息を一つ。

終点まではあと少し。

今日も長い一日になりそうだな。

## プロローグ（後書き）

アドバイス等ありましたら  
遠慮なくお願いします。

参考にさせていただきます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2463ba/>

---

もし今、僕らが死んだとしたら。

2012年1月6日09時45分発行